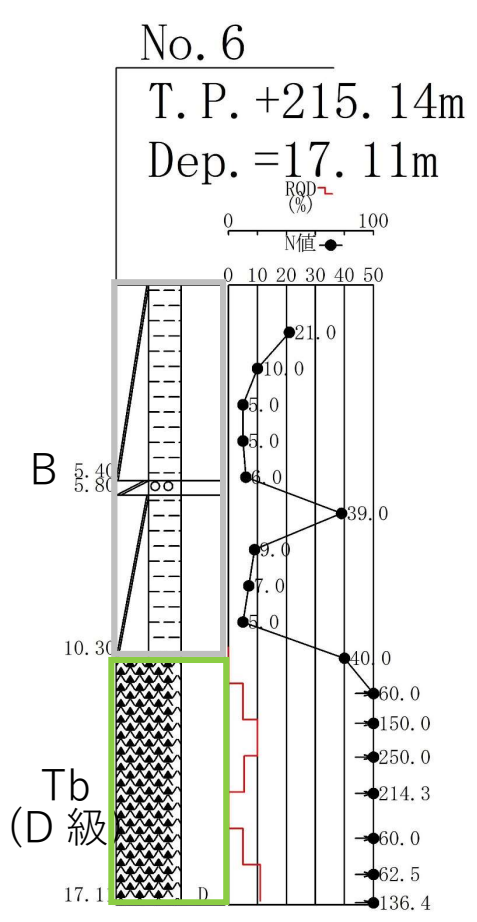


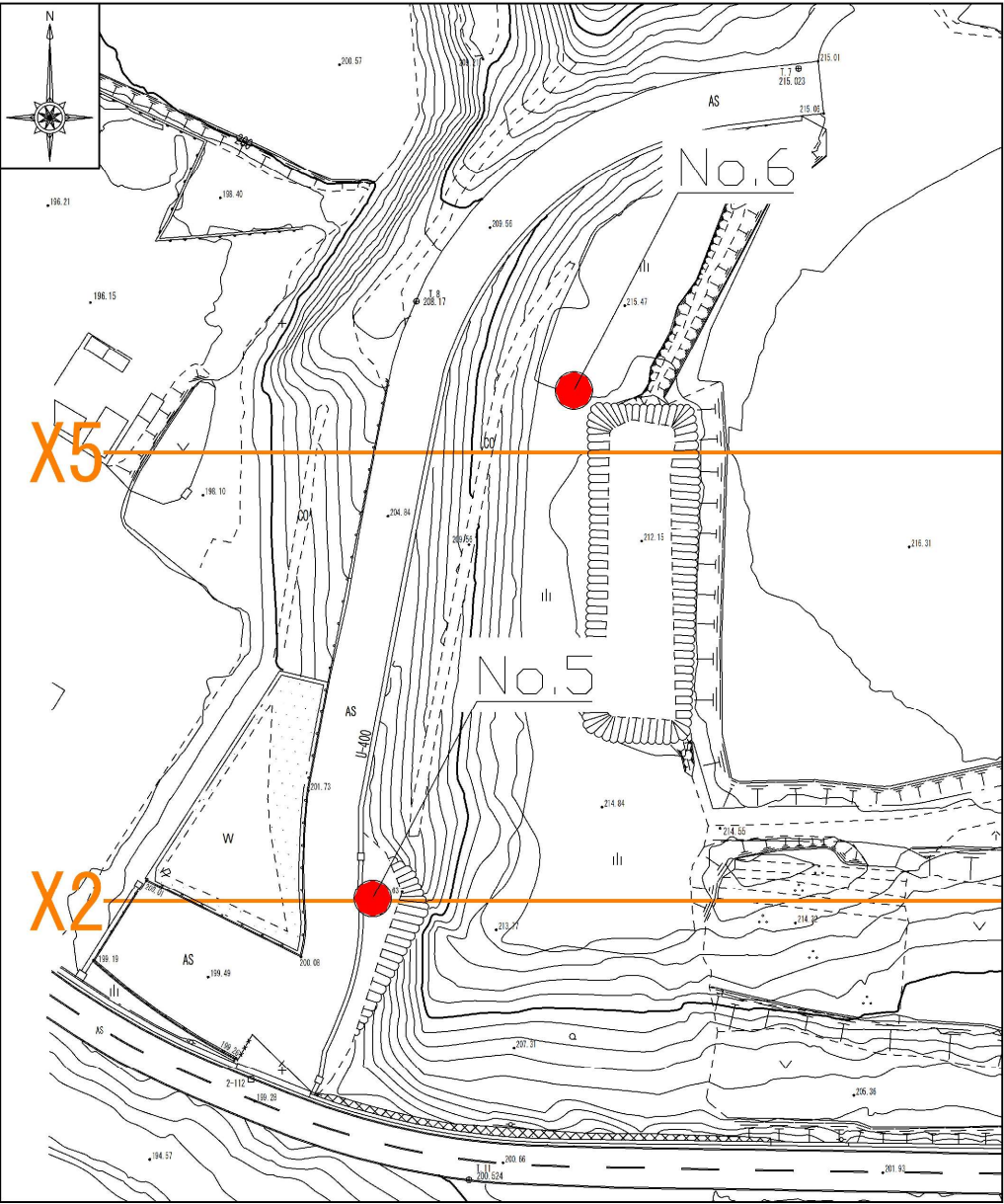
■調査ボーリング結果 (No.5)

簡略柱状図	コア写真	記 事
No. 5 T. P. +200. 54m Dep. =8. 21m	件名 令和5年度 羽根地区森林資源活用拠点における 土地利用計画策定支援 委託業務 孔番 No. 5 深度 0.00 m ~ 8.21 m 社名 (株) 首都圏総合計画研究所	GL±0.00～-2.65m：埋土 (B) 火山灰質粘性土主体の埋土層。 φ5~40mm 程度の垂角礫を不均質に含む。 GL-2.45～2.65m の最下部には植物片を含む暗褐色の粘土質シルトが主体となる。 N値は 2～7 を示し、相対密度は「非常に緩い」相対密度を示す。 GL-2.65～-4.45m： 武蔵野ローム層 火山灰質シルト質粘土 (Sc) シルト質粘土主体の降下火山碎屑物主体で部分的に粘土質シルト主体。 不均質にスコリア質の砂礫を含み礫はφ5～10 mm程度の角礫～垂角礫。色調は「暗褐色」～「褐色」を示す。 N値は 1.7～6 を示し、相対密度は「非常に緩い」相対密度を示す。 GL-4.45～-7.90m： 丹沢層群本谷川層 強風化凝灰角礫岩 (w-Tb) 全般に著しく風化し、シルト質粘土状および部分的に粘土質シルト状となる。粘土主体部分は半固結状態である。 不均質にφ5～10 mm程度の角礫～垂角礫スコリア質の砂礫を含む。GL-6.45～6.90m にかけて局所的に砂礫が卓越する部分があり、一部級化している。 色調は「茶褐色」～「褐灰色」を示す。 最大コア長は 1cm 未満であり、RQD は全体を通して 0%である。換算 N値は 76～125 を示す。 GL-7.90～-8.21m： 丹沢層群本谷川層 風化凝灰角礫岩 (Tb) 砂礫～岩片状コア主体。φ10mm 程度の角礫を含む。 岩級区分は D 級相当で、岩片はハンマーの強打で割れる程度の硬さである。色調は「暗褐色」を示す。 最大コア長は 8cm であり、RQD は 0%である。 換算 N値は 93.8 を示す。

■調査ボーリング結果 (No.6)

簡略柱状図	コア写真	記 事
No. 6 T. P. +215. 14m Dep. =17. 11m 		GL±0.00～-10.30m：盛土 (B) GL-0.65～5.40m は火山灰質シルト質粘土主体。 GL-5.40～5.80m は凝灰岩由来の角礫主体。 GL-5.80～10.30m は砂混じりシルト質粘土主体。 最上位の GL±0.00～0.65m では草根を多量に混入する。 不均質に火山砂や凝灰岩およびスコリアからなる礫を含むが GL-5.80m 以深では極端に減少する。 GL-6.15m および GL-7.57m ではビニール片の混入が確認された。 含水少ない。粘性中位。 色調は「淡褐色」～「褐灰色」を示す。 N値は 5～39 を示し、相対密度は「非常に緩い」～「中ぐらい」相対密度を示す。 GL-10.30～-17.11m： 丹沢層群本谷川層 風化凝灰角礫岩 (Tb) 岩片状～短棒状コア主体。 岩級区分は概ね D 級相当で全般に酸化され褐色を帯びる。 全般に亀裂が多く発達する。亀裂面は酸化され、一部亀裂沿いに風化し土砂化する。 岩片はハンマーの強打で割れる程度の硬さである。 色調は「茶褐色」を示す。 最大コア長は GL-16.00～17.00m 間で 22cm であり、RQD は全体を通して 0～22% である。 換算 N値は 60～250 を示す。

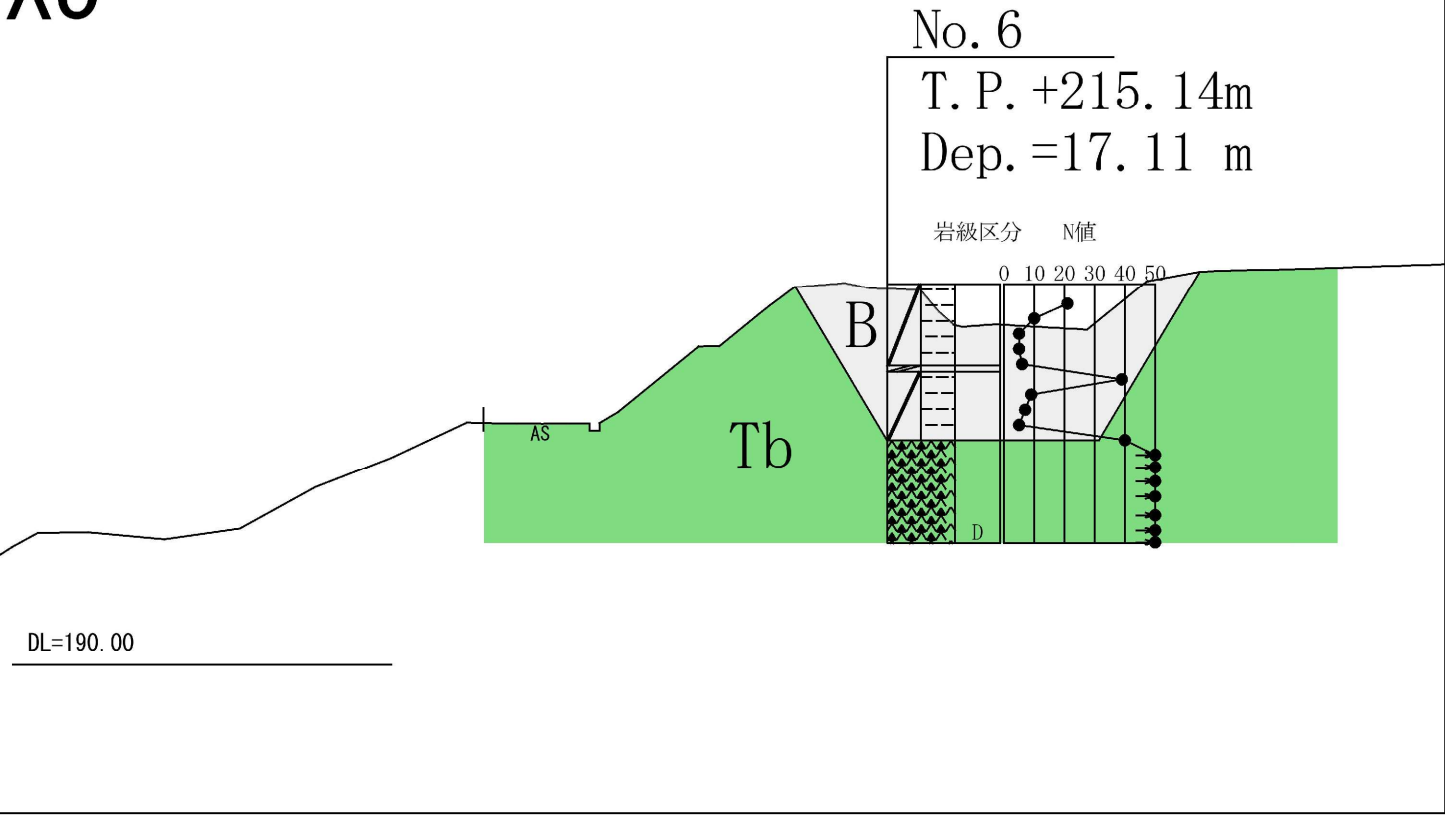
■進入道路法面の推定地質断面図 (S=1:500)



層序表

地質時代			地層名	主な土質・岩質	記号	N値 (平均)
現世			盛土	碎石、粘性土	B	2.0~39.0 (10.5)
新生代	第四紀	更新世	武蔵野ローム層	火山灰質シルト質粘土	Sc	1.7~6.0 (3.9)
	新第三紀	中新世	丹沢層群 本谷川層	強風化凝灰角礫岩	w-Tb	26.0~125.0 (70.7)
				風化凝灰角礫岩	Tb	60.0~250 (118.6)

X5



X2

